

令和8年度 佐賀市立若楠小学校 教育課程

1 学校教育目標

夢をもち、明るく笑顔で生き生きとチャレンジする児童の育成」～たくましく ゆたかに ひびけ われら若楠～

2 本年度の重点目標

- ・主体的に学び、考え、行動する児童の育成
- ・安心して学べる教育環境の充実

3 重点取組内容

(1)学習指導の充実

- 自分で学びをつくる楽しさを実感できる児童の育成
- ・「学びのプラン」を活用し、自己の学びを振り返る場や調整する場を設定する。
- ・「聴いて 考えて つなげる」授業の「つなげる」の低中高の姿を明確にし、それに向けた授業づくりに取り組む。
- ・各学年部で授業公開を行い、研究会を通して授業力の見直し・改善を行う。
- ・支持的風土を作り、児童の実態把握、授業作りに活用するために、WEBQUの結果を分析し、研修を行う。
- ・ICTに関わる研修を行い、教師のICT活用能力の向上を図る。また、児童が主体的に活用する実践を積み上げる。

(2)生徒指導の充実

- 自分で考え、自分で動く児童の育成、組織的対応の充実
- ・互いに認め合う集団作り(異学年集団による縦割り活動、年間を通した「ぼかぼか貯金」、月に一度の命を考える時間、人権集会の実施)
- ・いじめ・問題行動に対する未然防止・早期対応・再発防止の指導に対する共通理解と組織を生かした対応力の育成(ほのぼのアンケートの活用による児童理解を行う。)
- ・情報機器取り扱い上のトラブルに対する未然防止と保護者への啓発
- ・不登校、別室登校等児童への対応の充実(校内支援体制の構築、定期的な支援会議の実施、家庭・地域、外部機関との連携)

(3)特別支援教育の充実

- 児童が安心して学べる場の保障
- ・特別支援コーディネーターを中心に、児童の生活や学習上の困難の軽減、改善に向けて校内支援体制の充実(支援会議、児童の実態把握、学校生活支援員、特別支援学級支援員の活用)
- ・支援を必要としている児童や児童を取り巻く課題を把握し、全職員で情報共有を行う。指導や支援の仕方について共通理解を図る。(「合理的配慮」、学習環境のUD化)
- ・特別支援教育についての職員の専門性を高める。
- ・専門機関や保護者との連携(「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成と活用)

(4)市民性を育む教育の取り組み

- 児童が、学校や家庭だけでなく社会全体とつながり、学びを広げられる環境の充実
- ・各教科等年間指導計画の中に地域に関する学習や地域の人と関わる体験活動など「ひと・もの・こと」を生かした行事や単元を位置づける。
- ・ボランティア活動による地域貢献、ふるさと学習による郷土を愛する心情を育む。
- ・学校運営協議会で、教育課程や学校行事を共有したり、児童が学校行事等に意見できる場を設定したりする。